

三九七三番

おほきみ 大君の 命みこと恐かしこみ あしひきの 山野やまの障さはらず 天あま
ざか 離る 鄙ひなも治をさむる ますらをや なにか物もの思もふ
あをによし 奈良道ならち来き通かよふ 玉梓たまづさの 使つかひ絶たえめ
や 隠こもり恋こひ 息いきづき渡わたり 下思したもひに 嘆なげかふ我わが
背せ 古ゆいにしへ 言いひ継つぎ来くらし 世よの中なかは 数かずなき
ものそ 慰なぐさむる こともあらむと 里人さとびとの 我あれ
に告つぐらく 山辺やまびには 桜花さくらばな散ちり かほ鳥とりの
間まなくしば鳴なく 春はるの野のに すみれを摘つむと 白しろ
たへの 袖折そでをり返かへし 紅くれなるの 赤裳あかもすそび裾すそ引き 娘をとめ子
らは 思おもひ乱みだれて 君待きみまつと うら恋こひすなり
心こころぐし いざ見みに行ゆかな ことはたなゆひ